

会議報告

第32回飼料の安全性に関する検討会

YAMANAKA Noriko

病態研究領域 領域長補佐 山中 典子

第32回飼料の安全性に関する検討会が、平成23年10月21日（金）に動物衛生研究所を幹事場所として開催されましたので、概要を報告します。

この検討会は、昭和56年以来、行政と検査・研究機関との間で飼料の安全性に関する情報交換のため、毎年開催されており、開催場所は動物衛生研究所、畜産草地研究所、農林水産消費安全技術センターの順となっています。参集範囲は、以下の通りです。消費・安全局畜水産安全管理課（1）、生産局畜産部畜産振興課（1）、農林水産技術会議事務局（1）、動物医薬品検査所（1）、農林水産消費安全技術センター（4）、畜産草地研究所（7）、動物衛生研究所（13）（括弧内は出席者数）。

議事は以下のように機関ごとに飼料の安全性に関する情勢と取り組みについて発表、討論を行いました。

(1) 消費・安全局畜水産安全管理課

①消費・安全局畜水産安全管理課長、生産局畜産部畜産振興課長通知「原子力発電所事故をふまえた家畜の飼養管理について」（平成23年3月19日）、②消費・安全局畜水産安全管理課長通知「原子力発電所事故を踏まえた粗飼料中の放射性物質の暫定基準値の設定について」（平成23年4月14日）、③消費・安全局長、生産局長、林野庁長官、水産庁長官通知「放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・培土及び飼料の暫定許容値の設定について」（平成23年8月1日）、④消費・安全局畜水産安全管理課長通知「配合飼料中の放射性セシウムの暫定許容値の設定及び確認について」（平成23年8月2日一部改正平成23年8月8日）、⑤消費・

安全局畜水産安全管理課長通知「飼料中の放射性セシウムのモニタリングについて」（平成23年9月7日）、⑥消費・安全局畜水産安全管理課長通知「飼料中の放射性セシウムの検査方法について」（平成23年8月3日一部改正平成23年9月7日）、⑦消費・安全局畜水産安全管理課長、生産局農産部穀物課長、生産局農産部貿易業務課長、生産局畜産部畜産振興課長、水産庁増殖推進部栽培養殖課長通知「平成23年産麦に由来するふすま及び麦ぬかの取扱いについて」（平成23年9月13日）、⑧消費・安全局農産安全管理課長、消費・安全局畜水産安全管理課長、食料産業局食品製造卸売課長、生産局農産部農産企画課長、生産局農産部穀物課長、生産局畜産部畜産振興課長、水産庁増殖推進部栽培養殖課長通知「平成23年産米から生じる米ぬかの取扱いについて」（平成23年9月17日）、⑨生産局畜産部畜産振興課長、農産部穀物課長通知「平成23年産米穀の飼料利用について」（平成23年10月6日）の通知を挙げて、原子力発電所事故以降の飼料の汚染状況や対策についての説明があり、討議を行いました。

また、組換えDNA技術応用飼料の基準についておよび飼料の安全性に関する委託費等について説明があり、討議を行いました。

(2) 生産局畜産部畜産振興課

消費・安全局畜水産安全管理課と同様の原子力発電所事故に関わる各種通知についての説明がありました。中でも特に牛肉・稲ワラからのセシウム検出について、経緯、地域別、経時的な汚染状況、流通、東京電力からの賠償、その他農家に対する支援対策

会議報告

など、現状について説明があり、討議を行いました。

(3) 農林水産技術会議事務局

平成 24 年度概算要求の重点事項について説明がありました。例年の生産、エネルギー、環境、危機管理に関する技術開発に加え、原子力発電所事故に関する地域再生、除染、復興にむけた技術開発を推進する要求内容となっており、これに対する質疑が行われました。

(4) 動物医薬品検査所

JVARM (Japanese Veterinary Antimicrobial Resistance Monitoring System) におけるこれまでの薬剤感受性調査成績の概要について説明があり、調査結果による具体的なリスク管理措置の手法や、動物種による適用薬剤と耐性薬剤の出現との関係などについて討議を行いました。

(5) 農林水産消費安全技術センター

農林水産消費安全技術センターにおける飼料等の放射性物質の検査およびマルチプレックス PCR による飼料中のサルモネラ主要血清型迅速同定法の開発について説明がなされ、実用化に向けたプロトコルの構築について討議がなされました。

(6) 畜産草地研究所

第 3 期中期計画開始に伴う組織改編について説

明がありました。続いて、現在進行中の飼料の安全性に関する研究課題についての説明、牛乳中の放射線核種に関する調査研究の結果および平成 22 年度研究成果情報の紹介がされました。最後に、日本飼養標準（家禽）の改訂作業の状況について説明がされ、さらに、エコフィードに関するシンポジウムを開催予定である旨の報告がありました。

(7) 動物衛生研究所

第 3 期中期計画開始に伴う組織改編について説明がありました。続いて、平成 22 年度主要研究成果についての説明があり、さらに、研究トピックスとなる課題として「サルモネラ主要血清型迅速同定法開発」、「家畜の肝臓由来細胞株を用いた新しい毒性評価手法」、「畜産環境における新規 POPs の PFOS とその他 PFCs の分析」について説明がなされ、討議が行われました。

(8) その他

(1) から (7) の話題を通じた総合討論が行われました。

来年度の検討会は畜産草地研究所で開催されることが確認されました。また検討課題として、現在オブザーバーとして参加している動物医薬品検査所の正式な本検討会への参加が提案され、動物医薬品検査所の出席者から担当者と協議するとの回答がありました。